

平成 19 年度宮前区区民会議・明日のコミュニティ部会(第 5 回) 摘録

日 時 平成 19 年 9 月 21 日(金) 18 時 05 分～20 時 00 分
場 所 宮前区役所 4 階第 4 会議室
出席者 宇賀神部会長、鈴木恵子委員、高木委員、永野委員、松井委員、三谷委員、
事務局 田邊企画調整担当主幹、中山企画調整担当主査、東企画調整担当主査、成沢職員
子ども総合支援担当参事

1. 開会・事務連絡(事務局)

事務局から事務連絡

- ・情報公開について
- ・ご案内・・・危機管理フォーラム in 宮前、タウンミーティング

部会長あいさつ

2. 議事

資料について

事務局から資料の説明

宇賀神部会長 コミュニティのイメージ図が左右に分かれているのは何か意図があるのか？

事務局 特に意図はありません。コーディネーターも 1 人ではなく、何人が必要となるだろう。

行政の関わり方

三谷委員 行政の関わりや、試みをもっとわかりやすく入れ込むべきではないか？

永野委員 行政の役割は地域コーディネーターの発掘・育成のところの主になるのではないか。

行政は子ども安全・安心協議会の事務局的な作業もしており、パトロール時に身に付ける腕章などをつくる際の資金支援なども行っている。子ども安全・安心協議会は、学校だけでなく、いかに地域が関わっていくかが課題だが、保護者が学校外の人を入れることに抵抗を示す傾向があり、そうした場合には行政が地域との関わりを促していく必要もあるだろう。

地域コミュニティの活性化方法(委員宿題より)

宇賀神部会長 子ども安全・安心協議会を核に、例えばスポーツ、音楽、水と緑、美術など、新たなテーマを掲げ、楽しみながらコミュニティの形成につなげる。例えばテーマに合わせたシンボルマークをつくって、見まわりの ID カードに貼ったり、ランドセルにステッカーを貼るなどして機運を地域全体で盛り上げていく。

高木委員 子ども安全・安心協議会が活性化していない地域をまず活性化していく。防犯・防災をテーマに、自治会や老人会と一緒に地域イベントを開催し、講習会やワークショップなどに取り組む。初山自治会ではワークショップ形式が大きな効果を挙げている。

三谷委員 地域の実情や特徴、背景などを知り、参加や行動をしやすい場をつくる。町内会や商店街の活性化が基本。保育園や幼稚園の経営者には地付きの人が多く、キーマンになりうる。モデル事例と

して成功例を集め、積極的に広報、マニュアル化していく。

松井委員 協働推進事業「グリーンフォーラム 21 宮前」を今後の地域コミュニティのベースとして（9月30日に立ち上げイベント開催予定）「水と緑と花と人」を各地域で地道に広げて行く。中学校区単位での展開で、各地域から世話役がどれだけ出てきてくれるかまだわからないが、地域をどんどん応援していきたい。今年度の目標は、各地域の緑の情報を集め、区全体としてまとめるマップの下地をつくること。

子ども安全・安心協議会の活性化について

地域との連携強化

永野委員 子ども安全・安心協議会では先進事例の2小学校区（平、向丘）以外にも、9校区が地域に協力依頼を行い、連携の道を探り出しているが、残り5校はまだ学校関係者だけで活動している。地域にうまく広がらない理由は保護者の「子どもの情報を地域に広めて欲しくない」という意識や、学校側の保護者への遠慮にあると思う。学校のイベントもPTAの役員だけが参加している場合が多く、一般保護者をどう引き込んでいくかが課題となっている。地域一体で取り組めば、様々な問題が解決することをまず保護者に伝えていく必要がある。

鈴木委員 保護者の学校に対する希望・要望の出し方があまりに自己中心的になってきているということもあると思う。学校はできるだけ波風を立てずに済ませたいと思う傾向があり、地域に開きにくくなっていることを地域も意識しなければならない。

永野委員 子ども安全・安心協議会を父兄と教職員だけでやっている所は、地域の人には必要ないという考え・体勢になっている。先進2校では民生委員や老人会が中心であり、地域全体にはまだ広がっていないが、地域で様々な活動をしてきた人が会長になっている。

高木委員 子どもの安全・安心協議会はまだ始まったばかりで発展段階であるが、横断的な組織で、地域の核に発展しうる組織として着目している。今後更に活性化させ、良い運営ができると良い。協議会が活性化してくれば、場や人材育成にも自然につながるだろう。

宇賀神部会長 協議会の活性化だけ、この場で言っても提案にはならない。部会としてどうやって一緒に取組んでいくかをまとめていかなければならない。

新たなテーマへの取組み

宇賀神部会長 小学校区単位で活動している子ども安全・安心協議会が活性化し、充実していくことがコミュニティの形成にも役に立つ。安全・安心だけに取り組むのではなく、地域の共通目標、地域の宝物、財産を見つけていくような活動をしていく。プラスのテーマを見つけていくことが肝心だ。防災という意見があるようだが、避難所運営会議や自主防災組織が取組を始めており、またかと言われてしまいそうだ。これまであまり取組んでこなかったテーマをとりあげる方が良いのではないか。そのために情報交換、発表しあう場も必要だ。

表現の検討

鈴木委員 もう少しわかりやすく、やさしい言葉での表現も検討すると良いと思います。地域全体で子どもを安全・安心に育てていくことを伝える。

安全マップづくり

永野委員 安全・安心協議会の試みとしては、まず安全マップに取り組む。そこから地域の宝探しにつながるれば良いと思う。

高木委員 安全マップづくりも、世代別に取り組んだり、様々な地域の人を巻き込めるような進め方を段階的に進めていけると良いと思う。アドバイスしていく。

松井委員 地域を歩くと、花があって綺麗、緑が気持ちよいといったことだけでなく、不法投棄などに気が付き、気になるようになる。どうかしようと思うきっかけになる。

高木委員 子どもの目線と大人の目線が異なることにも気付く。見つかった地域の課題については、短絡的に解決するのではなく、みんなで話し合うことが重要だ。

地域の担い手について

リーダー育成の方法

鈴木委員 子どもたちは地域のイベントを楽しみにしているし、保護者の多くは地域と仲良くしたいと思っている。講習会やワークショップをどんどんやっていくべきだと思う。

県の事業で地域福祉コーディネーターの講座を開いているが、受講者には福祉関係の専門職の人が多し。本当は、地域の住民を主体に育成していきたい。地域の実情を一番知っているのは地域住民であり、そうした人がコーディネートをすることが最もうまくいくと思う。

先進地の鎌倉市では 100 人委員会という組織があり、そこで地域の子育て支援を話し合っていた。インターネット配信で数百人規模の大きなイベントもできる時代であり、若い世代なりの新しいやり方に対応していく必要もあると思う。

松井委員 コミュニティがうまくいっている地域では、地域一体で取り組むベースが、日頃から自治会の運動会などの地域行事で醸成されている。それが自然に人材育成の場にもなっている。

松井委員 リーダーに必要な基本的資質、人を動かすことに対するノウハウや責任について、昔は商店街のリーダー研修会などでも教わる機会があった。しかし最近の研修会は商売そのものがメインになっている。地域のリーダーを育成する研修を、役所と組んで定期的にやれると良い。

宇賀神部会長 若いときから様々な地域の間を経験していくことが大切だ。

永野委員 組織が縦割りになっていることも問題。研修会修了者が地域で生きるような下地が必要だ。各分野に人材がいても、そこで切れてしまい、互いの連携がなかなかできていない。

高木委員 いろいろな力をもっている人を地域で生かせる場がなければだめだ。地域リーダーやアドバイザーの制度化も提案して良いと思う。

担い手の発掘方法

三谷委員 PTA の OB や民生委員なども活用し、地域のコーディネーター人材発掘の工夫が必要だ。一律にお願いするのではなく、地域で活躍している人、できる人をどうやって見つけるか。うまく広報をすれば、引っ越してきてすぐの保護者でも参加し、担い手になってくれるだろう。

永野委員 PTA 会長は人材候補の一人だが、一律でということは良く無いだろう。PTA 会長を兼任している子ども安全・安心協議会の会長は、会合に出てこられる方が少ない。

三谷委員 「福祉コーディネーター」は目的がある程度明確だが、「地域コーディネーター」は漠然としている。宮前区の成年後見制度の担い手として今 20 人くらいの方が手を挙げてくださっている。こうした意識の高い方々を地域コーディネーターに育成していけると良い。

永野委員 地域のリーダー、地域で頑張っている人、積極的に活動している人は、商店街の人だったり、PTAの人だったり、自治会の人だったり様々だ。その人をうまく見つけてコーディネーターになってもらうのが良い。

鈴木委員 やはり地域性はある。人材を絞っていくと、結局同じ人になってしまったりする。

三谷委員 人材発掘のヒントを探していて、私立幼稚園に注目してみた。宮前区内には 11 園ということで思ったほど数は無かったが、経営者は土地に根付いている人ではないか。

幼稚園の経営者

事務局 私の子どもも幼稚園に通っているが、経営者は地元の人で地域にも顔が利き、一方で保護者であるお母さんたちとも仲良くしている。小学校のように学区などがはっきりしておらず、即イコール地域にはならないかもしれないが、コーディネーターとして可能性があるのかなという話をした。

松井委員 ひばり、有馬白百合、潮見台みどりなどの幼稚園の経営者とは親しくさせていただいている。ひばり幼稚園の園長さんは私の同級生だが、緑の活動にも非常に興味を持っている。情報をくれと言われてたり、お母さん方へ伝えるための展示なども持ちかけるとぜひやりたいというような返事が返ってくる。幼稚園は保護者と地域を関わらせるという意味でも非常に可能性があると思う。子供ためということでは乗ってきやすい、仲間にしやすい世代だと思います。

ターゲット層について

三谷委員 団塊の世代の活用ということが盛んに言われているが、会社の軋轢から開放されたばかりで、お金も比較的にある人達は今遊びまわっており、地域に目がなかなか向かない。70代くらいになってから、「そろそろ地域に貢献しようかな」ということになることが多く、そこをターゲットにしてはどうかという話が出ていた。

事務局 地域デビューのきっかけを与え、その中から地域のリーダーやアドバイザーになる方を育成していこうという考え方である。

鈴木委員 私の地域では女性を使って団塊の世代をうまく呼び込んでいる。地域デビューは圧倒的に女性の方が早く、子育てが終わった 50代から地域で活動を始めの方が多い。そういう方にうまくお父さんも引っ張ってきてよとお願いして、ボランティアの場に参加させる。

男性は女性の使い方を知らない。地域を動かしているのは女性だということを理解しなければならぬ。こういう会議も男性が多い傾向がありますが、男性だけで考えているとなかなか事が進まない。私の地域では会社人間だった人も間髪いれずに明日からやることあるよと引っ張ってきています。

永野委員 子育ての終わった女性の活用という言葉もぜひ入れるべきである。

三谷委員 女性はグループづくりや仲間づくりも上手だ。

鈴木委員 男性はまず組織の規約や位置付けをしましょうとくる。それでは地域がついてこない。女性からしても、仕事を卒業して家の中でばかりうろろうろされても困るので、「うちのお父さんなんとかしてよ」となる。私の地域では、「会社にいた時より忙しいよ」という方もいるくらいです。

今は働いている母親が多く、PTA 出ているお婆ちゃん、帰宅後の子どもの面倒を見ている、“子育て中のお婆ちゃん”が増えています。お婆ちゃんといっても、50代くらいの方がいたり、歳をとっていても元気な方も多いので、その方々も巻き込んでいくと良い。

地域での新しいテーマ、宝物さがし

松井委員 地域の大きな目標を定めて、それに絞って活動していく。地域全体でまとまって作業できるようにすれば、一体感も出てくる。地域の自主的な動きを生み出すことが重要だ。

三谷委員 おらが地域のシンボルを、何か共通認識で持つ。各地域で何か大切にしたいものがあるはずだ。地域で大事にしたいもの、素材を見つけ、シンボルとして地域がまとまっていけるようになると良い。地域の宝探しをぜひ提案の事例としてあげたい。宝物は文化でも歴史でもなんでも良い。

宇賀神部会長 地域で大事にしたいことをまず明確にしてもらおうと良い。

安全・安心、防犯

永野委員 みんなの興味を引きやすいのは、やはり安全・安心、防犯などのテーマだ。避難所運営会議も小学校区毎にあるので、その訓練などをうまく活性化していく方法もあると思う。小学校区単位で取組めるプログラムに消化していくことが大切だ。松井さんの緑の活動などは良い事例だ。

緑・自然

松井委員 宮前区は川崎市の中で一番緑が多い区だ。みんながこれを意識し、磨きをかける。平瀬川も非常に豊かな川で、釣りなどしていると、たくさんの方が興味を持って寄って来る。自然資源の魅力、力はすごい。学校などでも、花や緑を育てる活動に力を入れており、地域の活動に参加している。緑に関する活動が少しずつ広がってきている。

永野委員 今、みどりのカーテンと言って、学校校舎の壁面にツル性の植物を育て、夏も涼しく過ごすという取組みがある。これを小学校区単位で競争にしても面白い。地域と学校と一緒に協力して取組める機会を増やしていくこともできると思う

農業

松井委員 宮前区は都市農業が盛んと言われているが、担い手の高齢化がみられ、相続等で農地が失われることが増えている。地域の人に関わっていく、例えば小学校の子ども達の教材として活用していけば、農地存続の可能性も高まるだろう。農家の方も子どもたちに喜んでもらえるなら張り切る。地元の野菜を食べる地産地消を進めれば、地域の一体感も生まれてくるだろう。農業の分野ではまだまだ連携が出来ることがたくさんある。

歴史・文化

高木委員 初山の獅子舞も宗教的な事業ということで、自治会から切り離された時期があった。今それが見直されはじめ、自治会でも文化事業として保存会へのバックアップを検討しているが、まだ共通認識を持つまでには至っていない。

松井委員 ある地域でお囃子の文化が失われそうになり、学校に呼びかけたら 100 人集まったそうだ。有馬の盆踊りの太鼓は今、すごく層が厚く、低学年の子は洗濯桶を逆さにした物を代用し、上の学年にならないと本当の太鼓が叩けないほどだ。子供たちも参加できるプログラムは地域全体に元気や活気が生まれるし、子ども達が礼儀なども覚える場にもなる。

宮前区の原風景

三谷委員 宮前区の原風景がかなり失われてきてしまっている。犬蔵に 1,200 戸ほどの大型集合住宅が

建設中であり、きれいな道路は走りやすいが、原風景や谷戸は失われた。

松井委員 ホトケドジョウが生息するような川もまだあるが、周りの景色があまりにも変わってしまった。

宇賀神部会長 反対運動もあったが、その後うやむやになり、周囲がどんどん開発されてしまった。公園も誰が管理するのかわかりず、ボランティアもいない状態だ。

松井委員 近くの小学校が蛍の餌になるカワニナの育成装置を貰い、これを育てて、蛍の生息する場所にしたいという計画もある。うまくいけば地域のシンボルになると思うが、学校と地域の関わりが薄く、学校も地域から声をかけてもらうのを待っているような状況があるようだ。

情報交流の場の形成

高木委員 良い活動をしている事例を他の地域にも紹介する場がないと、なかなか広がっていかない。他地域で何をやっているのかほとんど知らないのが実体で、情報交流の場が必要だ。また新しい組織をつくるというのは、負担感も大きいので、既存の組織を活性化する方向で考えたい。その意味でも子ども安全・安心協議会は可能性があると思う。情報交換も可能性があると思う。

鈴木委員 各地域での地区社協の祭りはどうなっているのか？野川では非常に盛んで何千人という人が集まる。太鼓やお囃子の披露あり、出展ありのすごいイベントになっている。子ども達が地域でどんなことをしているのか、できるのかも見えるようになっている。

松井委員 地域毎に主体性を持ち、場作りの運営の仕方がわかると、地域が力を発揮してくるだろう。そういう文化というか、良い共有空間と時間を持てはコミュニティを成長する。今はまだそれぞれの活動がバラバラの状態だ。共通に出来る場があれば、一体感が生まれより大きな力になる。

人口動態について

事務局 先日発表の推計では、宮前区内の小学校生徒数は、30年後以降には減少していくということだ。今現在は乳幼児率も、小学生率も、子ども数も市内トップだが、0歳児の数では高津区と中原区に抜かれている。土地利用面で宮前区を見ると、生産緑地も斜面緑地も市内で断トツに多く、それらが全てマンションになるわけではないが、長いスパンで見れば、人口増加の可能性もあると思う。

永野委員 既存の集合団地などにはかなり高齢化が見られ、地域の小学校児童数が減少しているが、建物の老朽化も見られる。団地の建替えの予定などはどうなっているのか？またその時に若い世代が入居するような機会は創出されるのか？

事務局 5年から10年の間での建替え予定はまだありません。その先になるかと思えます。

まとめのイメージ、その他

高木委員 事例を少し盛り込まないと具体性がないと思う。